

第2回 創薬力の向上により国民に最新の医薬品を迅速に届けるための構想会議

日 時：令和6年2月8日（木）11：00－11：59

場 所：官邸4階 大会議室

議 事： 1．開会
2．論点整理（案）について
3．意見交換
4．閉会

配布資料： 資料 論点整理（案）
参考資料 これまでの会議における構成員の意見

出席者：村井 英樹	内閣官房副長官
鴨下 一郎	内閣官房参与
岩崎 真人	前武田薬品工業株式会社代表取締役
岩崎 甫	山梨大学副学長・融合研究臨床応用推進センター長
上原 明	大正製薬株式会社取締役会長
高橋 政代	株式会社ビジョンケア代表取締役社長
藤原 康弘	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長
牧 兼充	早稲田大学大学院経営管理研究科准教授
間野 博行	国立研究開発法人国立がん研究センター研究所長
南 砂	読売新聞東京本社常務取締役調査研究担当

○岩崎（真）構成員

- 異分野から創薬への参入を考えるスタートアップが増えてきているが、従来型の創薬スタートアップも含め、自社では能力強化が難しい薬事や知財のサポートを充実させるべきではないか。
- グローバル市場への進出という観点を考慮すべきであるが、公的保険外のマーケットも含め、我が国の医療、医薬品市場の魅力度を高めることがエコシステムの構築に重要ではないか。

○岩崎（甫）構成員

- 各事業における成果の統合・連携の推進による戦略的マネジメントと、メリハリの利いたGo/No Go判断による、柔軟性のあるファンディングを推進し、AMED（日本医療研究開発機構）の機能強化を図るべきではないか。
- 企業の参入が困難な研究開発事例に対して、薬事承認・社会実装が実行できる公的な組織が必要ではないか。

○高橋構成員

- 革新的な医薬品に対して、互助的な民間保険といった公的医療外の別財源を充てるべきではないか。
- 世界の中での日本といった考え方に立ち、我が国に世界のVCや人材を呼び込む、あるいは世界のエコシステムに入り、我が国のイノベーションを世界へ展開するべきではないか。

○藤原構成員

- 基礎研究やトランスレーショナルリサーチの振興のみでは我が国の創薬力向上は困難であり、これまでないがしろにされてきた後期臨床開発や臨床試験に着目すべきではないか。
- 医療機関において臨床試験実施を国際水準で行える体制整備を行い、そこで従事する人材育成を推進するべきではないか。医師以外のメディカルスタッフや事務職も含めた人材育成も意識すべきではないか。医薬品等の製造や品質管理の強化を進めるべきではないか。

○牧構成員

- 創薬エコシステムを構成する各プレイヤーのインセンティブを最大化するため、プロフィットの明確化によりスタートアップのエグジットの予見可能性を高めるとともに、エグジットまでのコストを削減するべきではないか。

- 我が国では創業スタートアップに対するVCの投資が少ない状況であるが、政府がVC投資を一時的に肩代わりしても、エコシステムの循環は維持されないのではないか。
- アクセラレーターの設計にあたっては、Venture Creation Modelといった海外の仕組みを参考に我が国の特性に合った在り方を検討すべきではないか。
- エコシステムの構築に向けた政策は長期的な視点を持つ必要があり、組織体制や予算が継続的に担保され、持続的に政策が実施される在り方を実現すべきではないか。

以上